

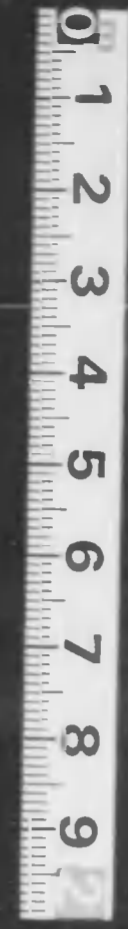


週寫眞  
報

編輯局報情

ノ七十・號五十八百二第日八十月八

職場は戦場だ



地底の息づまる暑さも何のその  
鑛山戦士が掘るは皇國の寶

この寶  
この汗もて

艦とし機とし彈とし  
憎き敵を微塵と碎け

鶴嘴持つ腕に一億の戦意あり

「時立札」は他へ轉載その他に御利用下さい



### 鑛山を激する岸商相

重要鑛物非常増産強調期間

↑ 坑口で交代時を控へ岸商相は「いまこそわれわれの腕の限り掘る秋だ」と強調した

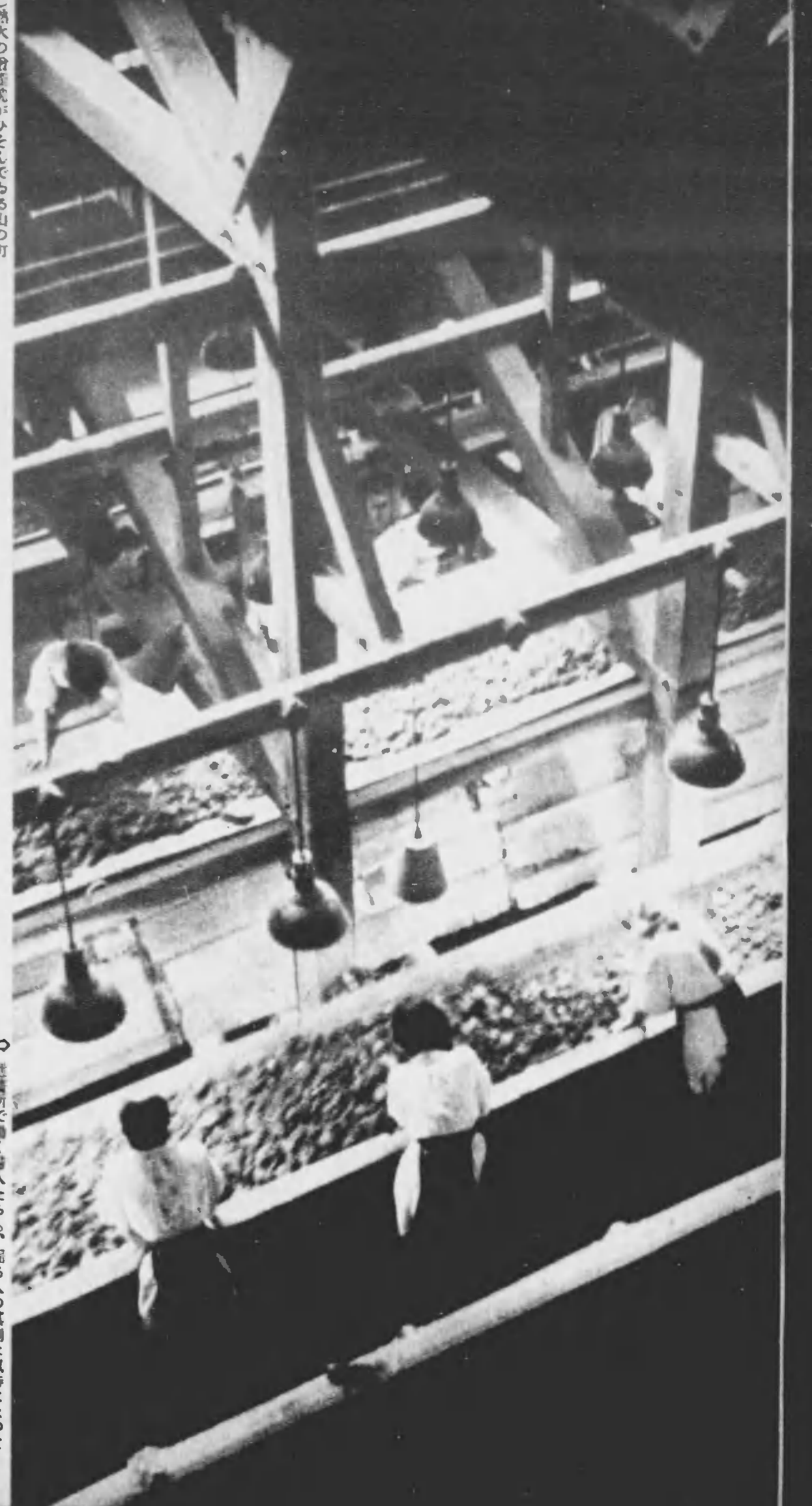
↓ 切羽の戦士の勇姿を味はよ岸商相

莫大な物資の消耗を伴ふ大規模な對米英戦争には、これに對抗する我が物質力や生産力を充實し、一億でも一艦でも多くの兵器を第一線に送り、卓抜なる精神力とともに、敵の反攻企圖を破砕して、その非望を打ち砕かねばならない  
ところが、これらの兵器、弾薬、航空機、艦船等を造るものとなるのは、鐵をはじめ銅、鉛、亜鉛等の金屬鑛物なので、これらの金屬鑛物を確保しなくては、軍艦や飛行機、戦車なども出来ないわけだ  
そこで今年、全国の各鑛山にこれまでになかった鑛山の生産目標が課せられ、各鑛山とも必死になつて増産を續けてゐるが、特にこの八、九の兩月を重要鑛物非常増産強調期間として、一齊に増産への總進軍を開始してゐる  
この期間中の八月三日、岸商工大臣は足尾銅山を訪れ陣頭指揮に當つたが、商相がいはれるやうに、ソロモンへ送る飛行機、南海に送る艦船は、みんな鐵だ。銅だ。いま、國家は鑛山の重要鑛物が絶對に必要なのだ  
われ／＼は掘つて掘り抜く以外にはない。われ／＼一億は鑛山戦士の後援となり、勝つためには石に噛りついても掘り抜かう



# 全属山嶺のそと

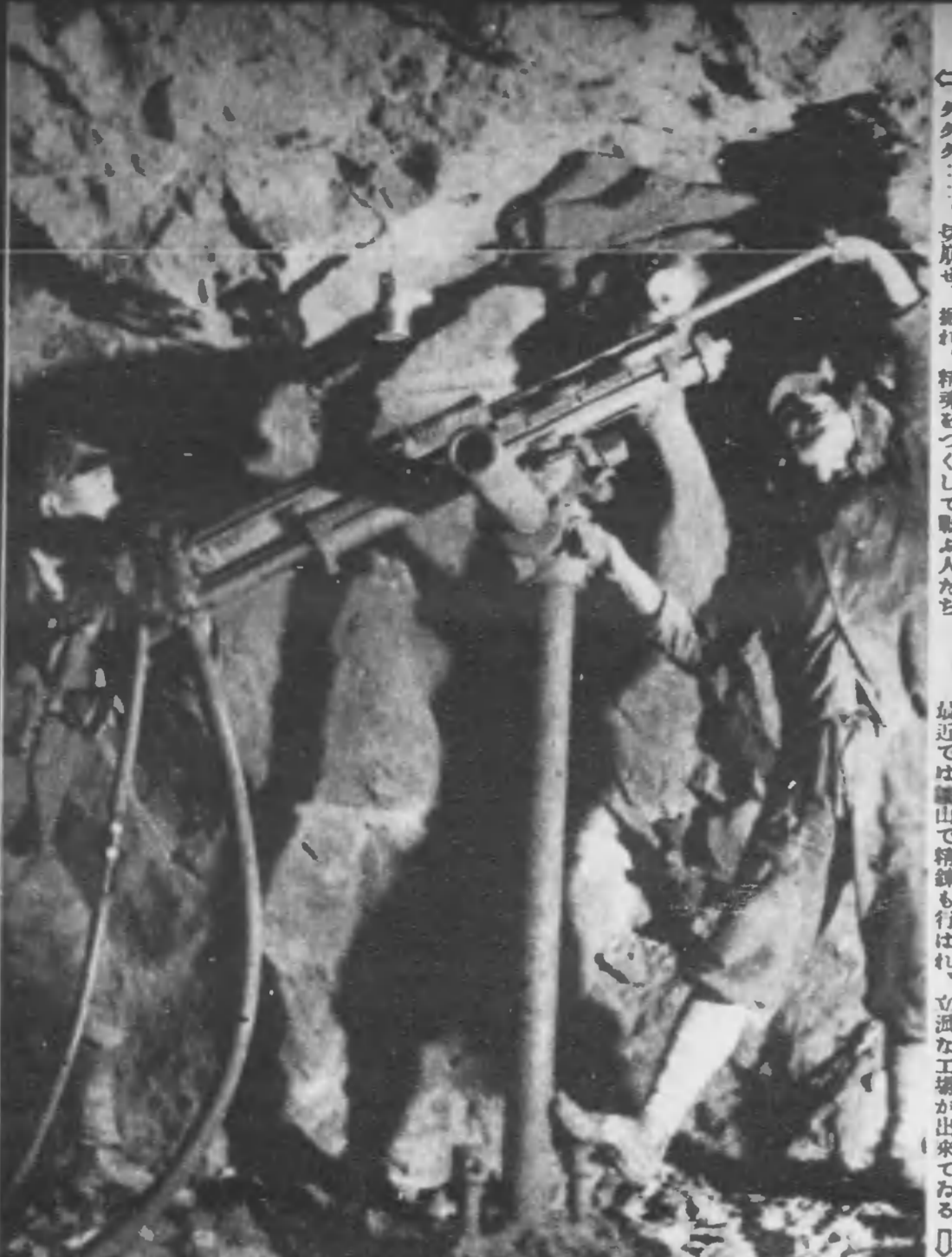
神岡山嶺



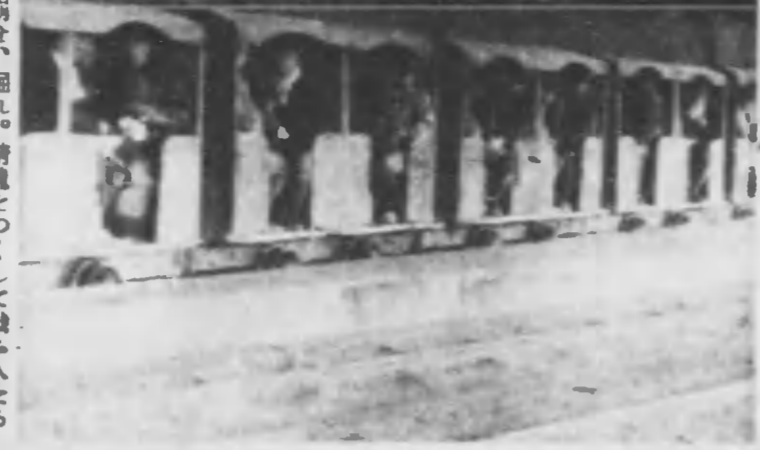
静かな、しかし熱火の増産がひそんである山の町



さあ、今日も元気に掘るぞ...人坑電車で職場へ急ぐ



グンググ...切崩せ、掘れ。精魂をつくりて職人たち



最近では山で精錬も行はれ、立派な工場が出来てゐる



岐阜縣神岡山嶺の亜鉛は、全日本生産高の五割四分、鉛は同じく四割を占めてゐる。もつてこの嶺山が重要礦物の非常増産に果す役割の重きが首肯されよう

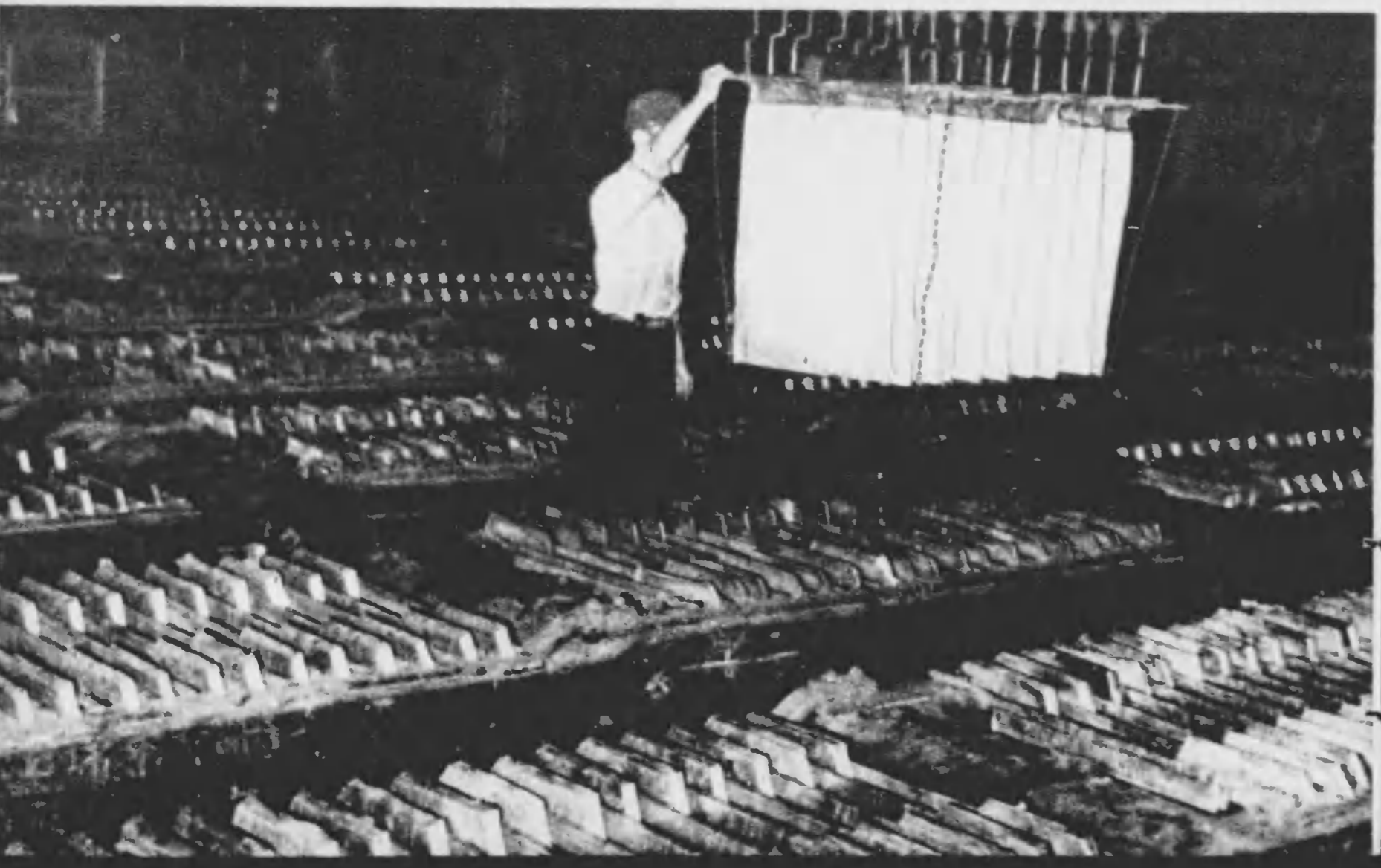
晩の四時、既に全山は今日の作業をめぐして活気を帯びて来る。五時の入坑時間が待たしいやうに、四時半になると、従業員が續々人坑電車の待合所に結めてくる。やがて五時、發車。嶺山戦士をきつしり載せた電車は一キロ餘の地

底を坑内詰所へ。こゝで整然と國民儀禮、増産綱領の齊唱の後、各自新しい意氣込で職場へ急ぐのである

それから八時間、交代時間が来るまでは全く脳目もふらず、ドリルは唸り、鋸歯は火を吐く。勝ち抜くために「断乎掘らう」の逞しい氣魄が凄愴なまでに全山をおほうて、非常増産への力強い敢闘が續くのである...

選礦所で働く職人たちも、掘る人の眞剣な氣持になつて... 徹した時局認識、戦ふ日本人としての自覺、更に陣頭指揮をあげ、始業前終業後の國民儀禮、増産綱領の齊唱、それから重要報道の通報板による速報徹底などが非常に役立つてゐる、と語つてゐるが、なるほどこの嶺山では、事務員も給仕も、全員地下足袋に鞆脚絆だ。この全山一體となつた「掘らう」の決意が、昨年度の増産目標一割突破、更に今年度の素晴らしい成績の基礎をなしてゐるといへよう

撮影 橋本満實





戦がなければ戦争は  
 出ない。しかし、そ  
 の鉄を戦艦とし、兵器  
 とするのは、石炭だ。  
 表戦下、重要物資の増  
 産が戦勝を上げれば上  
 げるほど、石炭の増産  
 は足が非でもやり遂げ  
 なければならぬ。そ  
 のために、国民学校高  
 等科を出た十六歳以下  
 の男子も、二十歳以上  
 の女子も、學つて入坑、  
 何が何でも石炭を掘  
 出すのだと、日本中の  
 炭礦が死力を盡して  
 る。

運送機の機關室と同  
 じ暑さといはれる坑道  
 の中で、鑿採機を、ス  
 コップを握りしめ、滴  
 る汗を拭く暇もなく掘  
 り出す男女炭礦戦士が  
 まつてこそ、戦争の生  
 命線「石炭」にはまぎは  
 ない。われらは前線の  
 將兵に献げる感謝と聲  
 援をこの人々にも送ら  
 うではないか。

海水掘り組員のご苦労  
 を思はば、この位はせ  
 むしと、暑さは何でも  
 耐えよう。

採炭の採炭機は  
 入山炭礦

炭礦戦士の労苦で掘り出  
 された石炭は、いよいよ  
 重要産業へ晴れの出陣だ  
 入山炭礦

だまどと鑿採機が唸る。  
 同じ音をたてて最前線  
 は重機が敵をなぎ倒して  
 る。その弾丸を造るの  
 に必要な石炭だ。

毎朝四時半現場へ繰込  
 父や兄を學寮が勵まし送  
 る。この心づくしがあつ  
 て増産が果される。

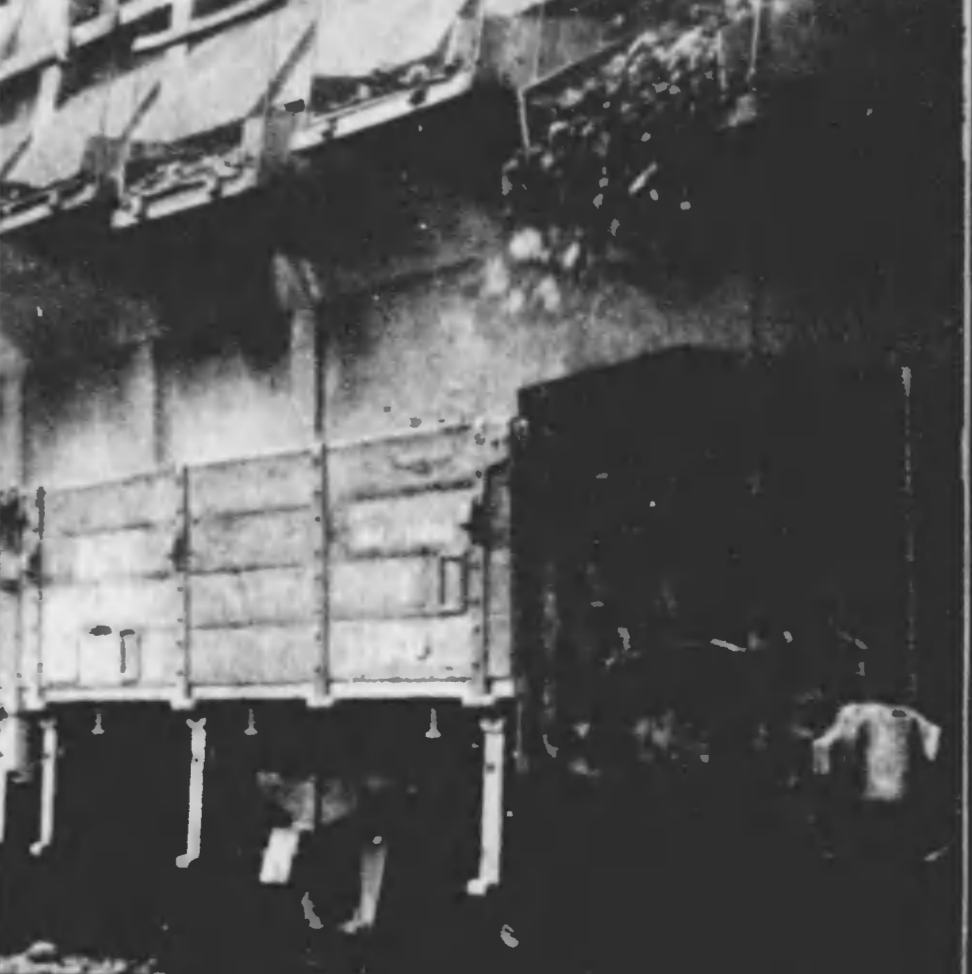
鑿採機

作業の前に運炭機は斬る  
 原軍將兵の武運や、勝利  
 を。それから必勝増産へ  
 まつしくらだ 好間炭礦

撮影 吉田保十郎

# 炭石は断乎掘り勝利のぞ

常磐炭礦



# 地下二百尺に 闘ふ醫學徒

葡萄嶺山における新潟醫科大學報國隊の勤勞協力



立派な教室が立派な員をつくるのではない。決戦の冥、  
休みをかなぐり捨てた學徒は、戦場から戦馬場へ進  
軍してゐる。一兵の足貫守の冬よ、法、経済學部が  
製菓、製糖、皮革等の製法を習得し、出動すれば、工學部  
は造紙所、製鐵所、重機部は丁田へ、農學部は農村へ、理學  
部は試験所へと、それ／＼實地で心身を鍛へてゐるが、  
新潟醫大報國隊は、縣下の葡萄嶺山へ出陣した



こゝは、決戦に必要な鎗、薬を産出する鑛山だけ  
に學生の奮闘も凄く、規律正しく、しかも至れりつく  
せりゆきぬ、即戦士ばかりか全村民は心から感激し  
た。また學生の目にあたりに見る鑛山戦士の、一秒も惜  
しんで働かぬ熱意にうたれた  
教室の學徒では決して教へられないこの生きた教訓に  
こそ、學徒勤勞協力の意義がある

撮影 吉田 榮



↑ 物資の輸送に  
↓ 物資の輸送に  
地下二百尺まで下りて血脈の調査だ。  
坑道を教室にして學生は戦ふ。右頁下  
戦場戦士の手がふるれば、戦力に  
退坑の暇にない

我が國に多いといはれる寄生虫の検査  
を、村の學校で毎日行つて、村民一人  
一人の健康増進へ

早く手術しないと手遅れになる  
器材の不備をおしきつて手術にこへ成  
功した

夜は夜で結核退治だ。傳染病の調査  
が、豫功までを、親切に思ふことが  
多い



# 道海北 隊徒生農援の千五万一ぶ振鉞

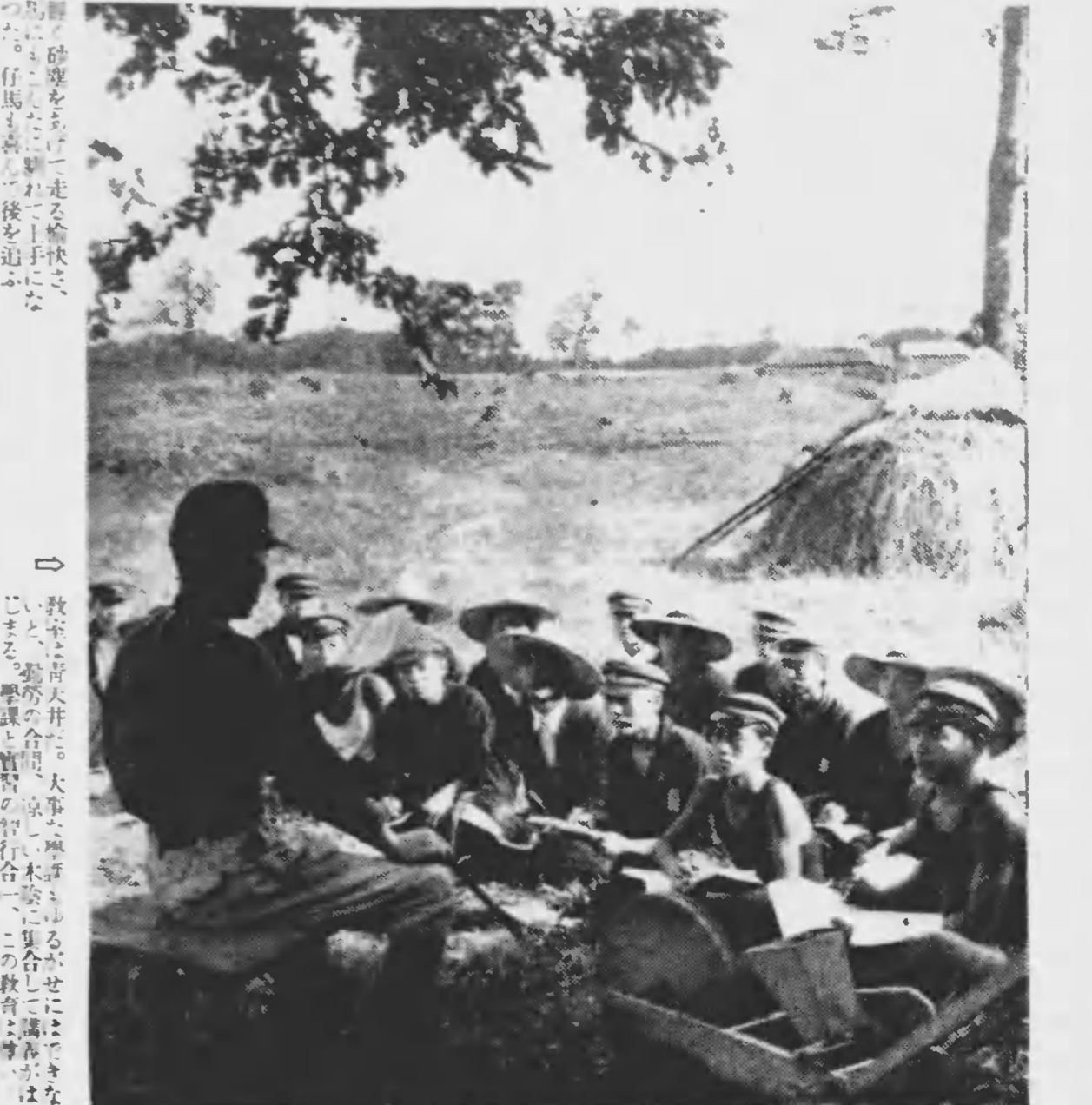
わが国政府の一つとして、従来も内地への主要な食糧供給地であった北海道に、今日、臨時下食糧事情の現狀に鑑み國家が望んでゐるものは、現在の勞力をもつては一寸違ひ無い數字にまで足りてゐる。

勿論、全国の農業従事者たちは汗が乾け、腕が折れるまでは頑張るぞと、悲壯な決心で臨んで立つたのだが、この勞力不足を救へると、いま全國の農學生徒中から選ばれた約一万五千人を中心として、内原訓練所の青少年義勇隊、青少年團等を知り、農學生徒を組織して、この秋の收穫期まで各隊順次に派遣、六十日の長期にわたり農家と共に食糧増産に懸命の努力を付けてゐる。

詳しくは農學生徒隊は、來年卒業決定の生徒、大體四十名を一組として、先生を隊長に軍隊式な編成により、土地の事情によつては國民學校、農會、共同作業所等に合宿し、或は農家に二、三人づつ分宿して、求められるままに、命ぜられるままに、真剣一點張り、朝から晩まで眞意になつて働かされてゐるのだ。

初めこの生徒隊を迎へた農家の人々は、そんな若い生徒さん達が辛い毎日を我慢して一緒に働いてくれるだらうか、といふ心配もあつたといふ。だが、そんな心配はいらなかつた。言葉も風習も違ふ農家の人たちのいふことを理解し、その生活の中にひたつきつて、家族同様に働いた。したがつて農家の人もまた、わが子、わが弟のやうな親愛の情にかられ、六十日の期間を終へて歸郷する生徒を送るときには、泣いて別離を惜しむといふ。

こゝに一例として、十勝農業学校に連日、たげ農學生徒隊、廣島縣立上下野學校生徒の勤勞生活を紹介しよう。



⇒ 師匠をあげて走る愉快さ、馬にこなしに馴れて上手になつた。仔馬も喜んで後を追ふ。

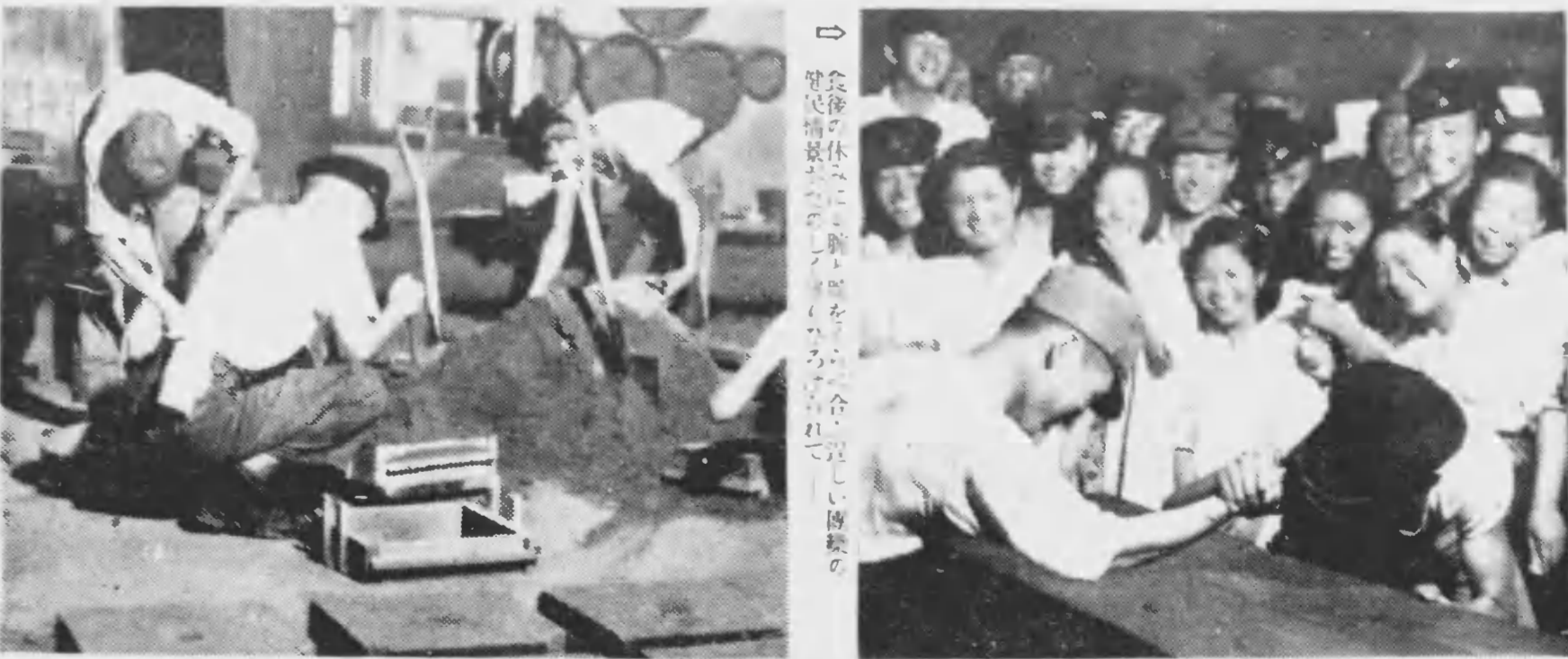
⇒ 教室は露天井だ。大事に準備されるがせによきなひと、優秀の合宿、涼しい木陰に集めて講習がはじまる。學課と實習の知行合一、この教育は尊い。



⇒ 一家族で十五町歩、二十町歩の畑を耕すのが北海道の農家だ。生徒たちは家族と一體になつて働く。働いてくすきつた少年達の胃袋に、晩飯ほど楽しいものはない。一緒に働いた農家の人達と家族のやうに和やかに、ほのほらい石油ランプの光までが嬉しい樂しさを播きまわされてゐる。

# 旋盤と取組む生徒

大阪府—西野田工業學校



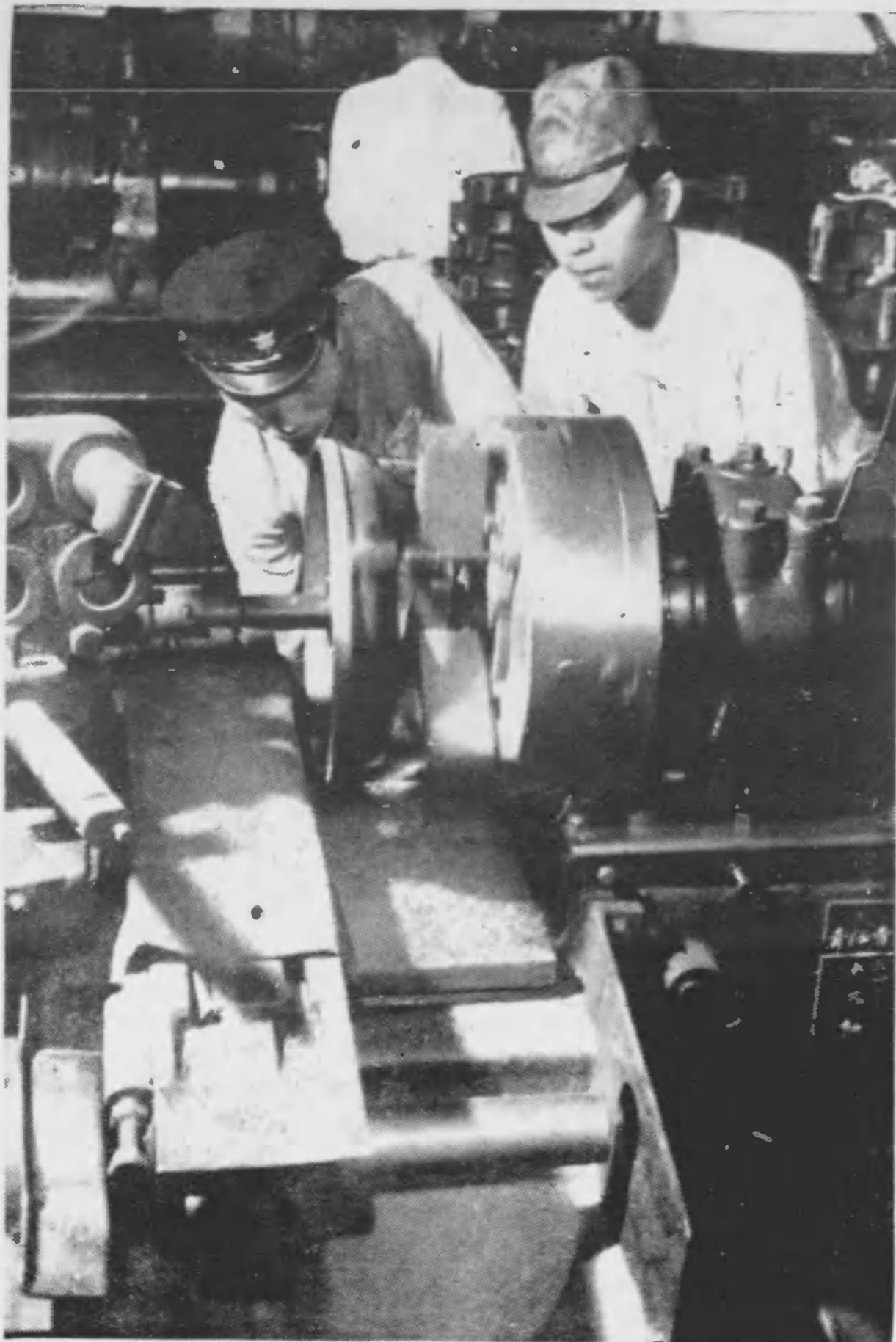
食後の休息に、旋盤を回す練習に励む生徒の姿。汗を流す姿もまた、その熱意の表れである。

汗にまみれた生徒の姿もまた、その熱意の表れである。

入江泰吉

夏に鍛へよ、と暑熱を敵つとばして全  
國の學生は、勤勞即健民の練成實施によ  
つて體力増強の増産運動を展開してゐる  
大阪公立西野田工業學校五年生四十名  
の部隊は、土用中の四週間に、三伏の猛暑  
ものかは、府下松下電氣工場に出動、

夏に鍛へよ、と暑熱を敵つとばして全  
國の學生は、勤勞即健民の練成實施によ  
つて體力増強の増産運動を展開してゐる  
大阪公立西野田工業學校五年生四十名  
の部隊は、土用中の四週間に、三伏の猛暑  
ものかは、府下松下電氣工場に出動、



## 大東亞戦争日誌

七月

- 六日 ● 昨年七月以降一ヶ月間  
における支那方面我が軍の綜合戦果  
次ぎの如し  
(一) 敵に與へたる損害 遺棄死傷約  
四十五万七千八百、俘虜約十四万  
九千、降虜約九万六千、飛行機二  
百七十機、主なる強襲品、各種火  
砲一千百一十一門、同彈藥約八万六  
千九百發、重機銃約四千四百五  
十挺、同彈藥約百四十七万四千  
發、小銃約十五万八千五百挺、同  
彈藥約一千六百六十五万四千發、船  
隻約一万六千ト  
(二) 我が方の損害 戦死八千二百八  
十一名、飛行機四十四機
- 八日 ● 海南島所在帝國海軍部  
隊は本年二月二十一日以來同島西北  
部山嶽地帯に蟻踞露中中の敵本據を  
攻撃し、六月下旬までに左の戦果を  
收めたり。遺棄死傷九千五百、投降  
者三千六百人、兩獲品、小銃三千二  
百挺、彈藥十五万二千包、機銃拳銃  
類二百九十挺、手榴彈一千八百六十  
六箇、地雷三十箇、ジャンク船隻抽  
九十隻
- 十四日 ● (一) ニューギニーチア  
島の我が守備隊は七月十四日ルピア  
ナ島よりムンダ東側地區に大舉上陸  
を企圖せる米軍を水際にて撃退し、そ  
の母艦十隻以上を撃沈し、残餘を  
盡く敗走せしめたり。(二) さきにム  
ンダ東側地區に進出ありし米軍の一  
部また右に呼應し出撃し來れる  
も、我が守備隊は直ちにこれを撃退  
せり
- 十五日 ● ソロモン群島方面帝國  
海軍航空部隊は七月十五日ルピアナ

島の敵陣地を攻撃し甚大なる損害を  
負ふと共に、反撃し來れる敵約五  
十機と交戦しその十九機を撃墜せ  
り。我が方未歸還十機

十六日 ● ソロモン群島方面帝國  
海軍航空部隊は七月十六日バムロ  
島(サンタクルーズ諸島)及びツラ  
ギ、ガダルカナルを攻撃し、在泊敵  
艦船に對し損害を與へたり

十七日 ● (一) 我がニューギニー  
チア島守備隊の一部は敵第一線の後  
方に迂回し、七月十七日夜アイ川東  
方の米軍上陸地點並びに自動車部隊  
を襲撃し、上陸施設及び該地の敵兵  
力に大なる損害を與ふと共に自動  
車部隊を破壊し、引續き戦果擴張中  
なり。(二) ニューギニーチア島ムン  
ダ附近の我が守備隊は敵軍を伴ふ敵  
の出撃を數次わたり撃退すると共に  
、七月十七日上陸を企圖せる敵魚  
雷艇群を砲撃し之を潰走せしめたり

● ソロモン群島方面帝國海軍航空部  
隊は七月十七日ブーゲンビル島アイ  
ンに攻撃せる敵百六十七機と交戦  
し、その五十八機を撃墜せり。我が  
方損害九機

二十日 ● 帝國潜水艦は七月二十  
日サンクリストバル島南方海域にお  
いてサンフランシスコ型巡洋艦一隻  
及び驅逐艦三隻より成る敵部隊と遭  
遇、驅逐艦の警戒網を突破、右巡洋  
艦に肉薄攻撃し、これを撃沈せり

二十一日 ● ソロモン群島方面の敵  
に對し反復攻撃中の帝國海軍航空部  
隊は七月二十一日午後レンドバ港所  
在敵艦船を強襲し、次ぎの戦果を收  
めたり

中型輸送船 一隻 轟沈  
大型輸送船 二隻 撃破

# 練訓洋海の生学女とき曹兵

京都府立第一高等女学校



秋事も高潮で...今日は朝の静けさと一品...



秋の静けさと高潮へ...今日は朝の静けさと一品...



秋の静けさと高潮へ...今日は朝の静けさと一品...

京都府立第一高等女校の上級生たちは、活潑な海軍で海洋訓練を行ひ、心身を鍛へるとともに、海への認識を深め、併せて、其戦下、我が海軍將兵の勞苦を憐れんだ。

例年の夏期水練なり、泳げくと水泳の訓練のみに重きを置かれてきたきらびもあつたが、同校今夏の海洋訓練は、戦時下に相應しく海軍の現役下士官を講師に招き、下士官並から結末の仕方及び海軍式游泳法などを學び、未來を擔ふ海國の母としての海洋知識を廣げた。

撮影 有吉 健治郎



秋の静けさと高潮へ...今日は朝の静けさと一品...



波を蹴り、沫を上げて國民は皆泳がう



大和陸軍艦 一隻 撃沈  
上陸用舟艇 十隻以上撃沈  
我が方未歸艦 一艘

二十二日 ●ソロン群島方面に補給増援中の帝國海軍特務艦、駆逐艦數隻並に同長護隊は七月二十二日同方面に於いて敵約九十機と交戦、その九機を撃墜したるを、我が方特務艦一隻沈没せり

二十五日 ●我が支那方面航空部隊は七月二十三、二十四、二十五の三日間に於て連綿在支那空軍の前進基地たる重慶、雲陽、瀘州、宜昌、建陽各飛行場を攻撃し、滑走路及び附屬施設を破壊、これに大なる損害を與へたるは、重慶、雲陽及び桂林附近において敵機二十八機を撃墜せり。我が方の損害は八機なり





# 米英の女どもに刀貝けません

さき、電報だ。どんな大層な用事かしら。早速お返しなくては... 東京都 日本橋高等女学校

さきに勞務調整令によつて男子の職場が限定され、これに代つて女子の職場進出が要望されておりましたが、

今度はまだ女子勤勞報國隊にも相當長期の勤勞が行はれることになりました。機手ながら御奉公しようといふ女子の決意と勤勞を、戦力増強の一翼として十分活かしてゆくことになつたのです。今度の戦争は總力戦、米英の女どもを相手とつて、大和魂子の眞價發揮はこの秋です



旅籠と取組んであるお友達がおます。驛の出札係にもお友達の姿を見かけるやうになつた。ほんたうに、うっかりしてはゐられない。あとは實踐への思ひ切つた踏切りだけです

東京都日本橋高女の五年生十五名が、楽しい夏休みを返上して日本橋郵便局に、男でも氣苦勞な集配員の役をかつて出ました。今、勝ち抜く勤勞への飛躍臺に立つてゐる多くの女性に、この健氣な姿をお送りします

配達先が自分の區だから、仕事にも張りがある。區分のできたのを靴につめて、配達にも、こつがある。區分と一緒に局員があれこれと親切に指導

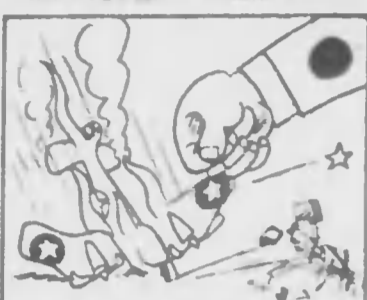
同區内のお友達が十五人。暑さも何のその、男子に負けぬ取組ぶりを見て下さい  
報國隊の陣章を見て「苦勞さま」その一言に働く喜びがしみくと



訪日國漫争戰亞東大  
介雄 川石



敵艦の沈没巡甲破突を衝度の敵



波撃艇の軍空米支在



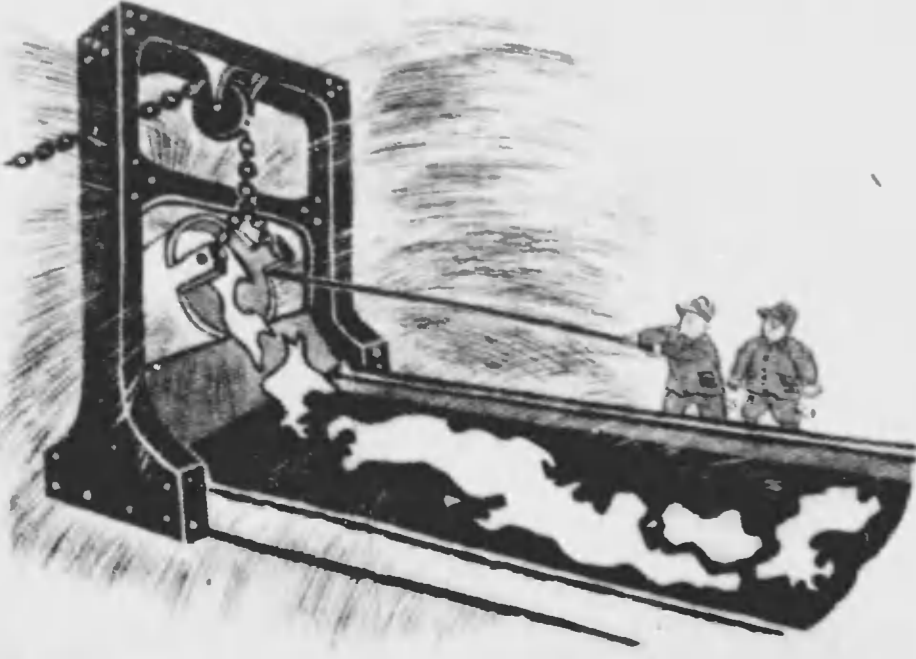
苦布戦官に英米國マルビ



陣役ら長師陣で職作行太皇八十

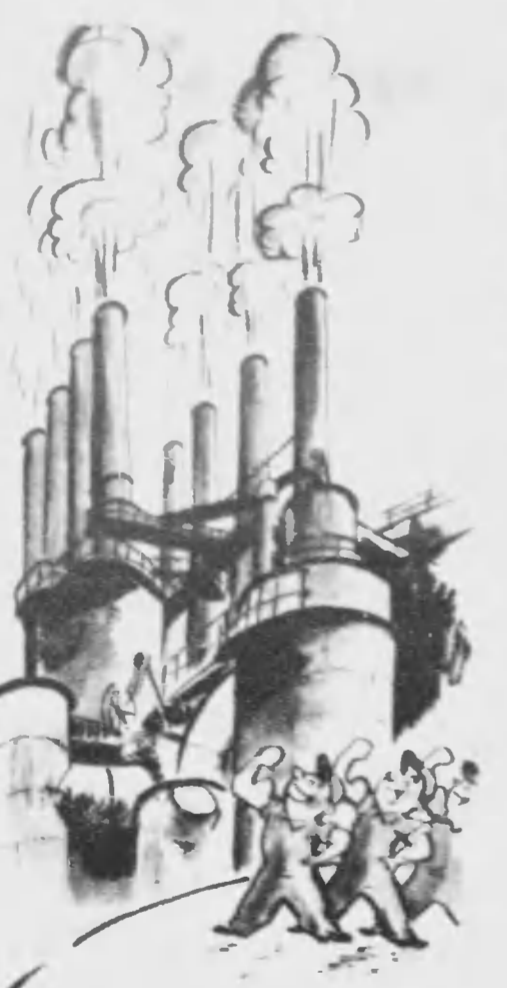


成完行飛同一上本國生學



地産の決戦場  
杉 柗夫  
切符の一突きが、やがては米英の本陣を破く  
信響となる

うた勝り掘



頭強らり

小泉 葉郎  
「わしらは金山から掘りだ  
で、この山へ引越してき  
ました。しつかりやります  
ぞ」  
「おい、腕は助金入りだ  
ぞ、匂むぞ」

八連装の高射砲?

杉 柗夫  
俺の力弱が頼れば、そ  
れだけ強さはあがるんだ  
けふの強さは十五倍だ



選練師の暇み

南 義郎  
この掘り一つ、が米英兵  
を倒す訓練だ。つまらぬ石  
ころは仕事の手離立する  
米英が、米英兵をはりき出  
す頃は、

鐘は生きてゐる

小泉 葉郎  
おい見のよ！ 鐘から掘れ  
出した鐘が重がいたこの地固  
さうだ。われは、鐘場を  
死守するんだ。そして、鐘  
を運んだ



とれた 笹の實  
一万五 千貫  
撮影 橋本清賢  
縣阜岐



大なす笹と拾圓採取する裝實生



採つた實は山麓で空俵に詰め高山市へ送られる  
高山實踐高女の雨天體操場を埋めた笹の實は  
女子部隊の手によつて火種物が除かれる

「笹の實」の食用は古く天保年間  
全国を襲つた大飢饉に、野生植物の  
食用化が飛騨、信州地方で盛んに行  
はれたとき、柄、椎、わらび、ぜん  
まい等と共に食用に供したといはれ  
てゐる  
戦時下、代用食が主食と並んで興  
勵されてゐるとき、この「笹の實」  
採取がこのほど飛騨山麓、安房峠を  
中心とした日本アルプス一万余歩に  
亘つて斐太中學校、同實業學校、平  
湯國民學校及び勤勞報國隊員等五百  
名によつて、收穫二万貫を目標に行  
はれた  
つる草に纏まされ、いはらに皮膚  
を傷つけ、大なす能笹をかきつけた  
汗の戦果は實に五五千餘貫に及んだ  
一方、これら採取男子部隊の勞苦  
に應へて高山高等女學校、同實踐女  
學校、同國民學校等の女子部隊はこ  
の戦果を引受け、眞夏の校庭を笹  
の實で埋め盡した  
やがて、この笹の實が小麥粉の代  
用として製麵に、製菓に、これら協  
力隊、報國隊員の努力に報いる日、近い



★表紙

西南太平洋の航空決戦は逐  
日熾烈化してくる。百機、二  
百機と彼の戦艦連合の編隊  
戦に、或は補給基地の爆撃  
に、全く思つて聞かない。こ  
の間にあつて、見敵必勝のわ  
が陸海軍の奮闘は、水も浅らさ  
ぬ緊密な協同のもとに、敵の  
出鼻々を叩いてゐる  
けふもまた陸軍は、海軍と  
ともに西南太平洋に敵艦隊に  
向ふ



賣出 八月二十日より 九月六日まで 大藏省	國	ま	勝
	債	だ	つ
	へ	あ	た
	!	る	め
	債	無	に
	券	駄	
	へ	を	國債の購入は 貯蓄金 利用せよ

本誌を回覧に 本誌を、函箱や郵局 へ送るなど、出 来るだけ有効に御利 用下さい。	前線慰問にも またお読みになった ら本誌を前線慰問に 送りませう。送料は 内地と同様で、封は るひは開封にして第 一報と明記すれば、 一報一報と送ります。	一部十銭 送料別 外郵便送りに依 る地域は送料依 拠十九銭 ▲特入費の場合は 且の郵便御拂込 金より差額を中 受けます。	昭和十八年八月 十八日 印刷発行 情報局 東京區神田區 水田町一丁目 印刷部 内閣印刷局 印刷部	寫眞週報 (禁轉載)
--	--	--	---	---------------

内閣印刷局印刷發行